

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	農福連携による就労継続支援A型事業
事業主体 (連絡先)	株式会社アルビスファーム信州なかの 中野市大字中野 1340-1 番地 (事業所)
事業区分	(6) オ 地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業 (6) イ 農業の振興と農山村づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	16,313,546 円 (うち支援金：6,000,000 円)

事業内容

- 就労継続支援A型事業所を設置し、中野市を中心とした障がい者9名を雇用し、就労支援を実施。また平成30年12月より障がい者10名として事業を展開している。
- 創業2年目として、農地の拡大と共に農業の基盤整備を目的に、玉ねぎ苗育時の播種機、玉ねぎの苗を植え付ける為に移植機、玉ねぎを収穫時に使用するピッカー、玉ねぎ収穫後用の調整機にタッピングマシン、玉ねぎ管理作業用に中型トラクター)を購入している。
- 引き続き中野市在住の農業者を農業サポーターとして営農委託(指導を含む)を実施
- 中野市内の遊休荒廃地を借り受け、玉葱の作付けを実施。平成31年春以降に収穫予定



【 事務所内での作業指導 】

【目標・ねらい】

- ① 障がい者の就労の場の開拓
- ② 遊休荒廃地を再生しズッキーニ、たまねぎ等の農作物の栽培

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- 障がい者9名を雇用し(平成30年度12月より障がい者10名)、作業に従事した。一年目の経験を元に、作業の流れ、また農作業における体力も強化して積極的に作業に参加するようになった。
- 一昨年、遊休荒廃地を借り受け、秋にたまねぎの作付けを行ったものの収穫、また年に2回に分けてのズッキーニの栽培を行った。
- ズッキーニ、玉ねぎ等を中心に栽培し、当社の親会社である富山のスーパーマーケットで販売を行い、お客様から好評を得た。

※自己評価【 B 】

【理由】

天候不順及び土壌の栄養不足もあって、計画していた生産量を確保することができなかったが、地域での認知度も上がったことで、障がい者の新規採用は計画通り進捗している。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- 主力作物である玉ねぎとズッキーニの収量、生産量の向上に取り組む。
- 障がい者が自信を持って農作物を栽培できるように農業サポーターや当社従業員が支援を進めていく。
- 事業計画に基づき、障がい者及びスタッフの新規雇用を図っていく。